

## 地方都市行政調査 報告書

委員会	文教委員会		
調査日	11月18日(水)	調査場所	石川県 加賀市
委員	委員長 馬場 信男 副委員長 前野 和男 副委員長 鈴木 けんいち 委員 鈴木 あきら 委員 鹿浜 昭 委員 吉田 こうじ 委員 大竹 さよこ		

調査項目	加賀市家庭教育支援条例について
調査の目的	教育行政に関する先進事例を調査研究することによって、教育環境の向上に資するため。
調査内容	<p>加賀市は、家族形態の多様化や地域社会とのつながりの希薄化、経済状況の変化等による家庭環境の変化に伴い、家庭教育力の低下が顕著な状況であったことを背景に、平成27年度、保護者が担う家庭教育を市民全体で支える環境を整備していくため、市区町村では全国初となる加賀市家庭教育支援条例を制定した。</p> <p>教育基本法には、「父母その他の保護者は、子の教育について第一義務的責任を有する」と家庭教育の自主性を尊重する一方で、保護者に対し、学習機会の提供や家庭教育を支援するための必要な施策を講じなければならないと明記されている。このことから、加賀市では同法に基づき、市の責務や保護者等の担うべき役割を明確化することで、子どもたちが成長するために必要な生活習慣や社会のルールを身につけさせ、将来を担う子どもたちが心身の調和のとれた健やかな成長を遂げられるよう、その実現に向け、家庭教育支援体制の整備や支援施策の策定等を進めている。</p> <p>本年8月には「第1回加賀市家庭教育推進会議」を設置・開催し、今後も事務担当者レベルの連絡会を開催するなど、更に情報共有を強化し、家庭教育推進計画の策定や効果的な事業の実施に向け、協議・検討を重ねている。</p>
主な質疑	<p>(問) 家庭教育支援条例の策定は、一から素案のない中で進めたのか。</p> <p>(答) 講演会や市政懇談会等の開催を通して、家庭教育に関する知見を深め、条例の大枠については、先進自治体の条例をベースに策定を進めた。</p> <p>(問) 条例制定後、行政の介入に対する否定的な意見は出ていたのかどうか。</p> <p>(答) 条例制定後は、特に否定的な意見はあがっていない。策定時にはそうした声もあったが、支援＝強制ではないとの理解が市民から得られたものとする。</p> <p>(問) 加賀市家庭教育推進計画の策定はいつまでの完成を目指しているか。</p> <p>(答) 今年度中、3月の完成を目指しているが、多少の延期も考えられる。</p> <p>(問) 条例の8条に、「事業者の役割」についての記載があるが、今後、事業者にどの程度の協力を求めるつもりか。</p> <p>(答) 事業者の協力は必要不可欠であり、これから推進計画の策定を進める中で、事業者との連携・協力についてより具体化した内容を盛り込んでいきたい。</p>
委員長所見・区政に活かせる点等	<p>加賀市は市区町村で全国初となる家庭教育支援条例を制定した。全市民に向けて「加賀市は家庭を大事にする市」と強く宣言することで、家庭教育への支援に関する社会的気運を醸成し、保護者の役割や責任についても市民の理解を深め、意識啓発を図っており、その与える影響は大きく、評価できる。また、加賀市の抱える教育問題は当区と共通する点も多く、忌憚のない意見交換もでき、大変勉強になった。</p>

## 地方都市行政調査 報告書

委員会	文教委員会		
調査日	11月19日(木)	調査場所	福井県 越前市
委員	委員長 馬場 信男 副委員長 前野 和男 副委員長 鈴木 けんいち 委員 鈴木 あきら 委員 鹿浜 昭 委員 吉田 こうじ 委員 大竹 さよこ		

調査項目	夢ある子ども育成事業について
調査の目的	教育行政に関する先進事例を調査研究することによって、教育環境の向上に資するため。
調査内容	<p>越前市では、子どもたちが激動の社会をたくましく生きるために、「夢を持つこと」、「夢に向かって努力すること」の素晴らしさや大切さについて学ぶ良い機会の場として、公益財団法人日本サッカー協会の「こころのプロジェクト・夢の教室」の紹介を受け、平成20年10月にモデル授業を味真野小学校で実施した。その後、モデル事業の成果をもとに、市内全小学校の小学5年生を対象とした「夢ある子ども育成事業」を予算化し、平成21年4月には、同事業の実施とともに、日本サッカー協会と「元気な自立都市 越前」を創造するための協定を締結し、現在も平成27年5月に再々締結と、引き続き関係を維持している。</p> <p>「夢の教室」では、サッカーのみならず様々な競技・ジャンルの現役選手やOB・OGなどが、夢先生として自らの体験をもとに、夢を持つことの大切さ、夢をかなえるために何をなすべきか、仲間と協力することの大切さや素晴らしさなどについて、講義と実技を交えて指導する授業を行い、子どもたちと夢について語り合う。</p> <p>平成22年度からは、小学5年生に加え、全国初となる中学2年生も対象とした「夢の教室」を全中学校で実施し、大きな成果を上げている。</p>
主な質疑	<p>(問) 小学校17校、中学校で分校を含め8校の実施とのことであるが、年間の予算はどの程度か</p> <p>(答) 夢の教室については年間で450万円程度、その他の事業を含めて700万円程度の予算である。</p> <p>(問) 夢の教室はスポーツ分野の先生が多いが、他分野に夢を抱いている子どもたちにとってはどうなのか。</p> <p>(答) 技術を教えるのではなく、自分の夢・目標の実現に向けてどうしたらいいのか、こんな努力をした、挫折した時にどう乗り越えたかなど、様々な体験を通じて、あらゆる分野に活かせる内容・プログラムとなっている。</p> <p>(問) 夢の醸成よりも、学力向上施策の充実化を求める声はなかったのか。</p> <p>(答) 最初は、学校現場からも懐疑的な声もあったが、実施してみると、大変好評で、今では越前市に欠かせない事業となっている。</p>
委員長所見・区政に活かせる点等	<p>夢の醸成並びに夢や目標に向かって努力することは、子どもたちが社会の中でたくましく生き抜くために大変肝要なことと考える。越前市の活用する「こころのプロジェクト・夢の教室」は、様々なスポーツ分野等で活躍する『夢先生』と出会い、授業の中で共に体を動かし、貴重な人生経験を学べる場として子どもたちに貴重かつ有意義な体験と影響を与えており、当区も参考としたい点の多い事業であった。</p>

## 地方都市行政調査 報告書

委員会	文教委員会		
調査日	11月20日(金)	調査場所	福井県 福井市
委員	委員長 馬場 信男 副委員長 前野 和男 副委員長 鈴木 けんいち 委員 鈴木 あきら 委員 鹿浜 昭 委員 吉田 こうじ 委員 大竹 さよこ		

調査項目	福井県立こども歴史文化館について
調査の目的	教育行政に関する先進事例を調査研究することによって、教育環境の向上に資するため。
調査内容	<p>以下の内容について施設の見学を行った。</p> <p><b>【施設概要】</b></p> <p>「福井県立こども歴史文化館」は、福井ゆかりの人物の紹介を通して、子どもたちに福井の歴史や文化を伝え、自分の将来に大きな夢を膨らませてもらうことを大きな目標として掲げ、福井の子どもたちが明るい未来に向けて、元気良く、たくましく育っていくことの願いも込めて、平成22年11月28日に開館された。</p> <p>館内は、歴史上の人物を「先人」として古代、中世、近世、幕末、近現代の時代ごとに54名、伝統工芸師やスポーツ選手などの「達人」29名のゆかりの品々について、それぞれ展示紹介している。</p> <p>また、ノーベル物理学賞を受賞した南部陽一郎博士については「科学ワールド」の中で、漢字研究の第一人者であった白川静博士についても「漢字ワールド」と、それぞれのブースを設け、詳細に紹介している。</p> <p>さらに、素粒子の世界を紹介する3Dシアターや手のひらをスクリーンにして、漢字の成り立ちをアニメーションで学ぶことができる漢字ファンタジアに加え、毎月2回の「くどう博士の手づくり科学おもちゃ教室」で賑わう体験ルームなど、子どもたちが実際に触れて、見て、感じることでできる体験型の様々なコーナーがあり、子どもたちの学ぶ意欲を駆り立てる様々な工夫が、館内のいたるところに施されているのも一つの特徴である。</p> <p>その他にも、地域住民が運営する「さくらこども図書室」や、毎月1回のせっちちゃんおばちゃんの紙しばい会で好評の「寺子屋ルーム」、約3,000年前から江戸時代に作られ、発掘調査で発見された土器や石器等、埋蔵文化財を展示する「どきどきルーム」、更に詳しく深く知りたい方のための「しらべルーム」といった調べ学習室もあり、そこでは歴史や科学に関する図書・パンフレットなども自由に閲覧でき、人物の情報検索や漢字ゲームなどできるコンピューターが常設されている。</p> <p>子どもたちだけでなく大人も楽しめる空間となっており、福井の先人・達人を通じて、福井の歴史や文化を学びながら、自分の将来に対する夢の醸成や新たな自己の発見に寄与する可能性を大いに秘めた施設となっている。</p>